農業研究の現場から

農業研究施設紹介（16）

全国農業協同組合連合会
（JA 全農）
営農・技術センター

所在地：神奈川県川崎市高輪区1-1-1

Message from Our Research Site: ZENNOH. By Kazuho

基本的な業務として、各課から担当する農業の特長や特徴を把握し、実証的な情報発信を目的としている。

Ⅰ 所在地

本施設は、東京駅から電車で1時間の神奈川県川崎市に位置しており、近郊に住む人々から親しまれています。施設の周辺は鉄砲台と呼ばれているが、工場の多走路を「鉄砲」として称するような、近辺で見かけることのできる古い地名でもある。鉄砲台は、鉄砲の音が聞こえ、近辺の地元住民から親しまれている地域である。

Ⅱ 研究所の設立

農業の試験研究については、1955年に農林省農業研究所の設立を受けて、水稲栽培、バイオテクノロジー等を含む農業の品種改良を開始した。1965年には全国進出研究所として正式に発足し、その後、神奈川県内に分所の東京農業大学、相模原農場（現：クミアイ化学工業株式）など小規模な施設を使用し、さらに2000年には農業技術センター設立のための国庫補助金が認められた。現在、施設は全国的に研究を展開しており、様々な農業の試験研究を推進している。

その後、2002年に研究所が発足し、小規模な農業技術センターとして他の研究所と同様に農業の研究を担う役割を果たしている。

試験研究や農業技術の開発、普及、普及活動を行う地域として、重要な役割を担っている。

Ⅲ 農業の調査研究と普及

本所は、全国の農業（JA）経済事業の連合会であり、農業研究室は、農業の流通対象を試験研究部門とすることなく、農業者や農業者団体との連携を深め、農業技術の普及を目的としている。

基本的な業務として、各課から担当する農業の特長や特徴を把握し、実証的な情報発信を目的としている。

試験研究や農業技術の開発、普及、普及活動を行う地域として、重要な役割を担っている。

近年の農業関連は、農業技術をターゲットとした開発が多岐にわたり、我が国の農業環境や病害虫対策に沿った農業開発が活発化している。さらに農業などの農業生産体を活発化する活動を推進し、国内においても地域の農業技術を活用し、地域の農業振興を図るための取り組みが進められている。